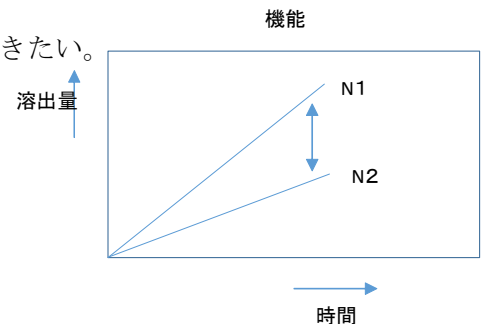


1. 年間計画策定、役割など、事務連絡

- (1) 合宿：10月、11月予定
- (2) 田口 伸さん 講演会：来日のタイミングに合わせて
- (3) 合同研究会（関西、京都、滋賀）：調査後対応方法について決定（調査者：大見氏、ITEQ）
- (4) 外部団体発表：中品協を通して検討 岩本氏⇄大見氏
- (5) 書籍購入：随時
- (6) 会計：中品協（研究会内担当：伊藤_依氏）
- (7) 会員メンバー幹事：昨年度同様（大見氏、牧野氏、横尾氏）

2. 技術改革 イノベティブな商品開発について（井上社長）

- ・研究会で技術開発のテーマをどのようにしていけば良いかを検討していきたい。
- ・そのためには、このステージで活用する個々の中身を理解する必要がある。
- ・まずは、各手法の勉強、ディスカッションをしながら進める。
- ・最終的に成果物は、日本を良くするための商品開発テーマを出していきたい。
- ・各種言葉の定義は各位で。
さらに深い内容については講師を招聘して勉強していく



3. 直行表：L12の活用について

- ・目的によって分析方法が変わる。
- ・以下の内容について、Gr 分けして、勉強する

	要求	目的
①	N1 と N2 の差を小さくしたい	測定による誤差（差）を小さくしたい
②	N1 と N2 の差は明確に、その違いを求める →N1 と N2 の差が大	N1 と N2 は LOT 差でわり、作成に少し差がある ⇒
③	N1 と N2 は単純な誤差因子として安定な条件を 求める	

- ・①、②は標示因子として考えるかどうか

4. 輪講：「よくわかる MT システム」第6章：RT 法（牧野氏）

- ・第6章は、RT 法である。現在普及している多変量解析では、計算出来ない項目数より、データ数が少ない場合に使用出来る方法である。
単位データは、距離を計算する場合、余因子で解析する方法では、1 個。逆行列型では、3 個必要であるが、牧野の経験から最低 4 個は必要である。
使用するのに適しているのは、外観検査、波形解析など単位が同一のもので、単位データが、大量に準備出来ないものであることを説明、メンバーで議論した。

5. MT 法計算マクロのバージョンアップ説明（池田）

- ・ツールの改良（解析範囲を拡張）、および、新規メンバー加入のため、MT 法解析ツールの操作方法の説明を実施。また過去の MT 法の活用事例を紹介。

6. 直近直交表 L12 を用いた改良消臭剤の合成条件検討（詳細は割愛する）（杉浦）